



気球にのろう！
in 藤里

空に届け！



《発行》
地域おこし協力隊
@かもや堂
電話 0185-74-5668
〒018-3201
藤里町藤琴字藤琴 55



最優秀賞「歴史と光」

建築設計事務所イーハンススタジオ 櫻井嘉八さん



応募作の模型を見比べる。



約70席に観覧者がいっぱい。

10月30日（金）、三世代交流館にて、『かもや堂』の改装案を決めるコンペティションの最終審査会が開かれました。審査委員は、竹内昌義さん（建築家・東北芸術工科大学教授）、ヨコミゾマコトさん（建築家・東京藝術大学教授）、中村政人さん（アーティスト・東京藝術大学准教授）、そして町のReデザイン委員会を代表して、中嶋智哉さんと佐々本文香さんです。

選考に残った13組からプレゼンテーションが行なわれ、最優秀賞に選ばれたのは、建築設計事務所イーハンススタジオ・櫻井嘉八さんの作品「歴史と光 ～使い手に灯がともり行きかう人々も温もりを感じるまちあかりスペース～」でした。

かもや堂リノベーション最終決定

10月18日（日）、藤里小学校グラウンドで気球搭乗イベントがありました。

朝7時半からの開始で、一時雲行きがあやしくもなりましたが、最後に、子どもたちが“未来へのメッセージ”を風船に付けて空に飛ばすときには、きれいな青空が広がりました。



あべんじろう先生の科学実験、何ができたかな!?



77名が空から景色を楽しみました。

「あそこ、私の家！」と指さしたり。



風船飛ばしで、誰が一番遠くまで飛ばせるか競争！



高いところが苦手だったり、気球に乗ったことがない人もいて、ドキドキしながら見守ります。

空から見た藤里を、子どもたちに。

『まちづくりH0!人 アイドサット』代表・中嶋智哉さん



バルーンアートで遊ぶ子どもたちと中嶋さん。

『アイドサット』として、初めてのイベント実施でした。町並みを見渡せる気球で、子ども達に思い出を残したいと企画しました。喜んでもらえて良かったと思います。次の挑戦もしていきたいです。

石橋談義

先月、藤里町社協の地域貢献担い手事業「きらり」の一環として「藤里町史」の講座が開かれ、僭越ながら筆者もその講師として参画した。日中六日間のカリキュラムは、歴史に相当関心深い方、あるいは時間的調整のできる方であれば参加は難しいと思っていたが、幸いに若い「町の協力隊員」や歴史に熱心な女性たちが中心となり、それなりに成果のある講座になったようだ▼午前は町の古代から現代までを机上で学習し、午後は実際に各集落を訪ね、町並み、旧家、文化財、住居跡、縄文遺跡などの歴史に接した。参加者の中には毎日見ている旧家の庭にはじめて入り、どっかりと座った蔵には歴史の重さを感じたとか、廃村となった集落の光景にはまばゆさとともに涙の出るようなノスタルジックなものを感じたなど、それぞれこの町をもう一度考えなおしてみたいという声が多かった▼藤里集落にある某旧地主宅、昔日の栄華を物語るように樹木は今を盛りとして紅葉に燃えている。家主はこのまま空家にするのか。あの大きな敷地を町かどこかで整備することによって集落のシンボルあるいは「憩いの場」として公園化されるだろう。明るさは必ず取り戻すはずだ。各集落にもそういった旧家が曝されたままになっている。ぜひ一考を。(F)



11月28日

マジKON!

あなたも恋のマジックに
かかるかも?

「日本一のいかさま手品師」ブラボー中谷を講師に“マジック教室+合コン”の『マジKON!』を開催! 11月28日(土)午後2時(集合1:30)から、会場は宝昌寺と白神時計台です。飲食コーナーや豪華景品もあります。

参加は事前にお申込みください。対象は20～40代の独身男女、参加費は男性3千円・女性2千円。主催は藤里まちなか盛り上げ隊です。問合せ・申込はTEL 79-1522まで。

→詳細はこちら



ライトアップされた白神時計台で、カップル誕生!?

とんじこんじ抄

絵師が龍の絵に目をいれ、たちまち龍は天に昇ったという故事があります。肝心なところを欠いては台無しという意です。光と温かさを生む、新しい『かもや堂』のプランが決まりました。それはまだ目のない龍のようなものです。魂を入れるにはどうしたらいいでしょう。ここに暮らす人々が『かもや堂』に灯をいれます。(シャケ)

編集後記

最近驚いたのが、松山納豆のパックにはたれとからしが付いていないことです。(藤原)



「和みの会」では、トミさんが写真係。



ご家族で祝われた結婚50周年。



衣装も考えて、おもしろい出し物を。(ボランティアの踊り・トミさんは左端)

聞き書き 第7回



「さんぱつおなご」って言われる

粕毛上町・桐越トミさん

「町」と一緒に結婚50周年。

当時はまだ藤琴村だったの。私が昭和38年に嫁いだ時には、「藤琴村」って住所で祝儀のハガキを出してね、結婚して籍に入ったのは「藤里町」でした。2013年、町制50周年だったでしょう。あの年に私達がちょうど金婚50周年であって、藤琴と粕毛をつなぐ橋ができたのも昭和38年だったと思います。結婚式で日本髪のかつらで橋を渡って、「今年できた橋だよねえ」と言った記憶があるから。

生まれた場所は藤琴村藤琴の山根(今の愛宕町)で、太良鉱山からのトロツコがうちの部落を走ってたのよ。停車場、営林所の事業所みたいなのところがあった、藤琴で一番栄えてあったの。営林署の独身寮もお店もいっぱいあって、営林署の若い人から卓球やダンスを習ったりね、運動会やつても何やつても藤琴の山根が一番であった。

一番尊敬するのは、母親。

うちは九人兄弟。姉は一人早く亡くなったけど、私は真ん中なのよ。両親は魚屋さんだったけど辞めて、父親が営林署の貯木場の親方みたいなことをして、それまでは良かったんだけど私が中学一年生の時に父親が亡く

なって、それからどうするって、私は東京で就職するつもりでいたんだけど、家から離れることができなかったの。

母親一人で8人の子ども育てていくって、鬼にも蛇にもならねばねったもんね。40歳で8人の子だよ。貧乏のどん底まで落ちて、生活保護を受けたらどうだかって言われたこともあったよ。時代が時代で、当時は生活保護って言えばみじめに思われるものだったから、そういう思いを子どもにさせたくないって「生活保護もらわねえでみんな頑張るべ」と歯くいしばってきただんだ。朝・夕は畑で、昼間は土方、夜は針仕事してあった。うちの母親は何でもやっつてすごいもんだったなあと、親を褒めたたえるのもおかしいけど、一番尊敬しています。

粕毛で何かしたい。

社協さんに入る前、鷹の巣の刺繍屋さんで、女性50余人くらいの上で中間管理職してあったの。会社入って半年でミシンから降ろされて、指導の方に異動になった時は「なんで私なの。私よりできる人がいるじゃないの」って思ってた。でも違うって社長に言われたの。「入ってきたときに、お前が男ならいい男であつたらうなって気持ちで見

た」って。私、女だよって(笑)。仕事も人間関係もつらくて、旦那に見せないように何度泣いたかわからない。でもそれが今の自分のためになってると思う。

この部落の女性で初めて車の免許取った時も、近所のおばあさん方に「あつこの嫁っこ、男みてえだ」って言われたなあ。その後からだんだん女性も免許取る人増えたけど、私が粕毛の第一号。今だったら普通だけど当時は笑われたもんだ。

それから社協さんで勤めたの。最初は厨房に入ったのに「あんたは現場向きだよ」って言われて、そのまま現場。でも現場に私の親と同じ年代の人達がたくさんいて、ああいう人と接触して良かったなあと思ったのね。そのときに私ふつと、ここ終われば何かしら粕毛の部落でやりたいって夢ができたの。

「和みの会」ではほほ笑うの。

「和みの会」は立ち上げて2年目になる。家族がいても、学校や仕事に行けば、家でおばあちゃん一人になっちゃうでしょう。そういう人達が集まって、たつた月1回でも、みんないろいろなことして、あはほほって笑うの。一緒にご飯作って、食べて、折り紙や割り箸で飾りとか作ったり、軽い体操したり。最近

22、23人くらい集まってるよ。

立ち上げた時、旦那に「あんたのこと好きでない人もいるだろうし、人にあだこうだ言われることもあるだろうけど、いいのよ」って言われたの。でも今はやって良かったなあって思ってる。今月は何だろうって、みんな楽しみにしてるの。

今はね、身体二つあっても足りねえなと思うくらい、いろいろやってるのよ。でも今一番は「和みの会」だ。全町のこともいいけど、やっぱり地域のこと何かが私の願望であつたから、これは頑張りたいかと思ってる。一人では何もできねったって。家族だって、うちのお父さんのおかげで私わがままできた。苦労はいっぱいしたけど、うちの時代はみんな当たり前だと言

うと思うよ。立派なことでもないけど、仲間助けられて、お世話になりながら、とじこじ頑張りたいです。(聞き手・藤原)

きりこし・とみさん●昭和18年11月27日、藤琴の山根で生まれる。「和みの会」のほか、ボランティア「すみれの会」会長、年一度の旅行「春日野友の会」は立ち上げて45年目、粕毛婦人会長、社協の評議・福祉員、保健衛生協力員、結核予防婦人会長、ふじさとスポーツクラブ副理事長、など。(さんぱつおなご:活発、おてんば、にぎやかな女性)